

戸建ての良さを味わえる 2世帯住宅

※住宅雑誌「Replan」76号より抜粋。



- 1 親世帯のLDKより見る。右手の建具は脇坂工務店の計らいでタモ材に。階段上部の吹き抜けによって実際の面積以上の開放感がある。
- 2 建具を開けると和室。100%天然い草(減農薬)のタタミを採用。
- 3 子世帯の玄関。1階は天井高を押さえて。
- 4 親世帯2階のハイスайдライトよりたっぷり取り込んだ外光は、1階のLDKまで届く。
- 5 子世帯の水まわり。
- 6・7 左手(南)が子世帯、右手(北)が親世帯。

設計監理

一級建築士事務所

ATELIER AG-PLANNING

札幌市北区新琴似7条13丁目1-14 302号
TEL/FAX 011-764-5001
<http://www2.odn.ne.jp/hokkaido-agp/>

施工



(有)脇坂工務店

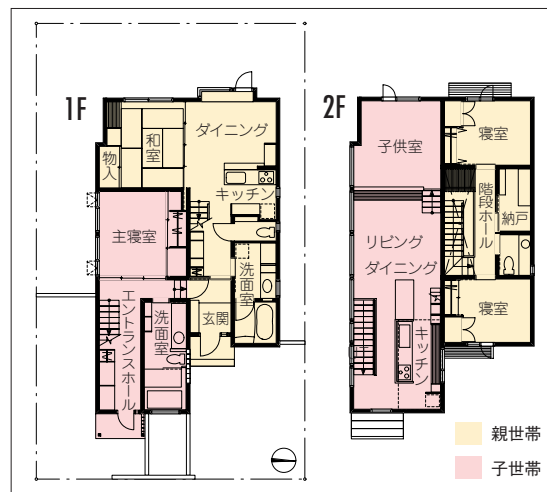
☎ 0120-711-525
本社営業部 小樽市銭函2丁目43-9
TEL 0134-61-2488
本店 札幌市東区北11条東4丁目5番地
TEL 011-785-2088
<http://www.wakisaka-EO.com>

設計者からの一言

今井 優子／尾形 剛弥

施工を担当してもらった脇坂工務店とは、現場でのコミュニケーションがスムーズでした。設計の意図を理解してもらい「お施主さんの希望をかなえる」という共通の方向性で仕事ができただかと思っています。

集成材で予定していた柱、梁などの構造材をすべて無垢材に変更するなど、いろいろ提案をもらいました。ていねいな仕事ぶりは、高い技術力と監理能力に裏付けられているからでしょう。



ありきたりではない
メリハリのある空間構成

木製の連窓と曲線を描く屋根形状が目を引くHさんは、一家3人と奥さんの両親が住まう2世帯住宅である。

以前、両親の家が建っていた敷地は東西に細長く、東の道路側以外は隣家が迫る密集地。2家族分の規模となると容積率をいっばい使うことになり、ありきたりな上下階を分割するプランでは1階の世帯への陽当たりが望めない。一方、敷地にはもともと道路レベルより60センチの盛り土がしてあったという。

そこで、建築家の今井優子さんと尾形剛弥さんは、その高低差を利用し、2世帯の床高をスキップさせて南北に隣り合わせ、それぞれ2層構成でたっぷり外光を取り込むプランを提案した。

南側を子世帯のエリアとして、水まわりと寝室は階高を抑えた1階に。2階はLDKと子ども室がスキップフロア構成で一体化。天井は可能な限り高く、開口部も空が見える上部に配したことで、Hさんが望んだ開放的な空間が確保された。親世帯は北側に位置することになったが、床レベルを上げたため、2階の南面には子世帯より高い位置にハイスайдライトが設けられ、吹き抜けを介して1階のLDKまで外光を存分に取り入れることが可能になっている。

また、この住宅では建材選びも重要なポイントであった。お子さんがアトピーで、Hさん夫妻もVOCに敏感。建材は全てパッチテストを行い、下地材まで徹底して、身体に影響のないものを採用した。

マンションのようなワンフロア仕様ではない、メリハリのある立体的な空間構成は、戸建ての良さを感じさせてくれた。H邸は、心地よい距離感と空気をもち合わせた2世帯住宅である。

子世帯のLDK。奥の階段をあがると子ども室。右手のキッチン上部はご主人のロフト。空間を立体的に活用。